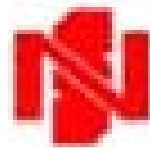




平成18年5月期中間決算説明会

大証2部 6496



株式会社 中北製作所

<http://www.nakakita-s.co.jp>

平成18年2月16日



- . 平成18年5月中間決算実績
- . 平成18年5月期通期見通し
- . 今後の展望



. 平成18年5月中間決算実績



1. 概要

単位:百万円(百万円以下切捨て)、%、円

	04/11	05/11	前年同期比		05/11 期初計画	期初計画比	
			増減	伸率		増減	伸率
売上高	8,815	8,939	124	1.4	8,500	439	5.2
営業利益	833	627	206	24.7	750	123	16.4
経常利益	816	660	156	19.1	750	90	12.0
当期純利益	455	384	71	15.6	450	66	14.7
一株当り利益	25.8		21.2			23.4	
一株当り配当金	-		12.5			12.5	
総資産	19,681		19,798				
株主資本	12,570		13,023				

ポイント

好調な受注を背景に計画を上回る売上を計上
 生産工程の一時的乱れの影響で営業減益
 中間配当実施



2. 生産・受注・受注残の推移

生産

単位：百万円

	04/11	05/11	前年同期比	
			増減	伸率
			自動調節弁	3,593
バタフライ弁	2,573	2,609	36	1.4
遠隔操作装置	2,561	2,468	93	3.6
生産高合計	8,728	8,887	159	1.8

受注高

	04/11	05/11	前年同期比	
			増減	伸率
			自動調節弁	4,144
バタフライ弁	3,996	2,597	1,399	35.0
遠隔操作装置	2,843	2,987	144	5.1
受注高合計	10,983	9,395	1,588	14.5

受注残

	04/11	05/11	前年同期比	
			増減	伸率
			自動調節弁	3,925
バタフライ弁	4,317	4,542	225	5.2
遠隔操作装置	4,415	5,727	1,312	29.7
受注残合計	12,656	15,207	2,551	20.2

生産(前年同期比1.8%増)

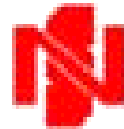
韓国のタンカー向けが減少、
内航船向バタフライ弁やガスタービン
向け自動調節弁が増加

受注高(同14.5%減)

資材の高騰を見越した早期発注が
集中した前年からは一巡

受注残(同20.2%増)

生産を上回る高水準の受注を獲得
し受注残高増嵩



3. 部門別売上高

単位：百万円、%

	04/11	05/11	増減	伸率	構成比
自動調節弁	3,607	3,808	201	5.6	42.6
バタフライ弁	2,582	2,610	28	1.1	29.2
遠隔操作装置	2,565	2,459	106	4.1	27.5
不動産賃貸収入	62	62	0	0.0	0.7
売上高・営業収益	8,816	8,939	123	1.4	100.0

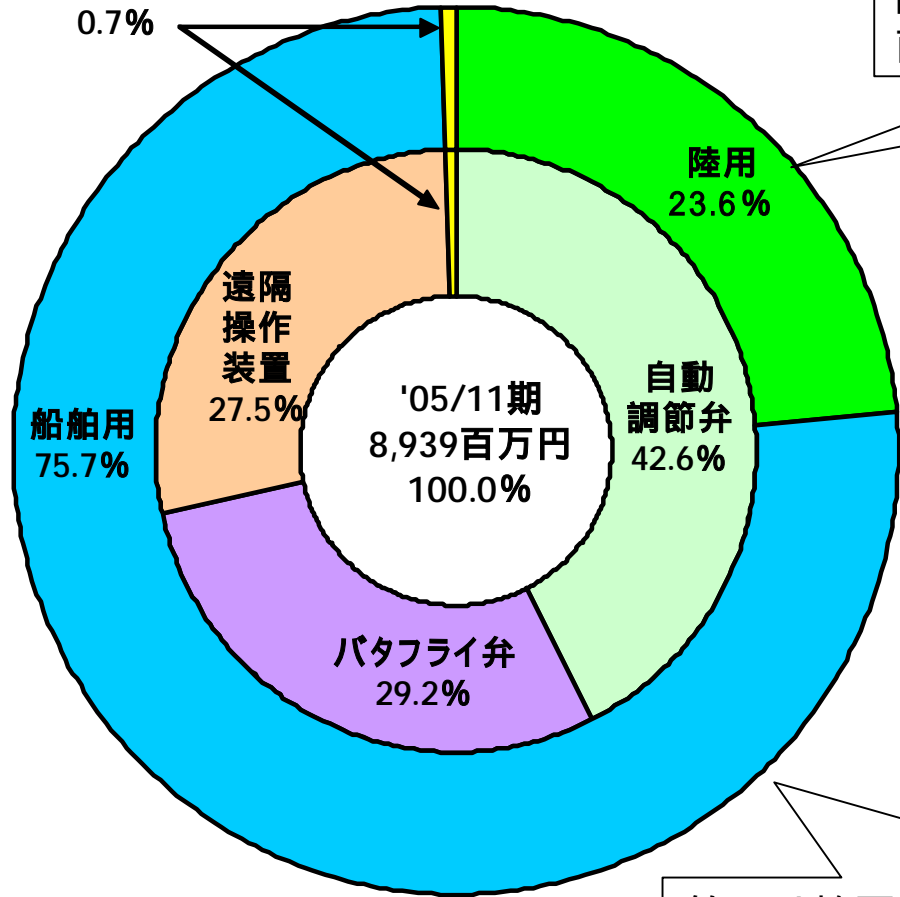
単位：百万円、%

	04/11	構成比	05/11	増減	伸率	構成比
陸用	1,906	21.6	2,111	205	10.7	23.6
船用	6,848	77.7	6,767	81	1.2	75.7
その他	62	0.7	62	0	0.0	0.7
合計	8,816	100.0	8,939	100	1.4	100.0



3.部門別売上高

不動産賃貸収入
0.7%



陸用はガスタービン向け自動調節弁の増加により前年比10.7%増、構成比2ポイントアップ

自動調節弁はガスタービン向けが増加
バタフライ弁は韓国向けの減少を内航タンカーその他の国内向けでカバー
遠隔操作装置は韓国向けの減少が影響

船用は韓国のタンカー向けの減少により前年比1.2%減、構成比2ポイントダウン



4. 地域別売上高

単位：百万円、%

	04/11	05/11	増減	伸率
国内	7,308	7,654	346	4.7
韓国	845	599	246	29.1
中国(香港)	572	597	25	4.4
その他	91	89	2	2.2
輸出	1,508	1,285	223	14.8
輸出比率	17.1	14.4		

韓国のタンカー建造減少の影響で韓国向けが減少
ドル建ては5億円強で為替影響は小さい



5. 損益計算書

単位:百万円、%

	04/11	05/11	増減	伸率	構成比
売上高	8,816	8,939	124	1.4	100.0
売上原価	7,230	7,535	306	4.2	84.3
売上総利益	1,586	1,404	182	11.5	15.7
販売費・一般管理費	752	776	24	3.2	8.7
営業利益	834	628	206	24.7	7.0
営業外損益	17	33	50	-	0.4
経常利益	816	661	156	19.1	7.4
特別損益	40	0	40	-	0.0
税引前当期純利益	776	661	116	14.9	7.4
法人税等	321	276	45	14.0	3.1
当期純利益	455	385	71	15.6	4.3

生産工程の一時的乱れの影響で増収ながら営業減益
 販管費増のうち役員賞与の経費算入により約20百万円増加
 営業外収益は投資有価証券の配当を中心に約50百万円増加



6. 貸借対照表

単位: 百万円

	05/5	05/11	増減	主要増減要因
流動資産合計	15,474	15,553	79	
現金・預金	4,277	3,450	827	仕入割引 689(注)
売上債権	7,300	7,628	328	
棚卸資産	2,525	2,911	386	
固定資産合計	4,627	4,245	382	
有形固定資産	1,989	2,390	401	設備 256
投資・その他の資産	2,627	1,845	782	
投資有価証券	1,743	1,116	627	投資有価証券償還 300、流動資産へ 500
資産合計	20,101	19,798	303	
流動負債合計	5,672	5,633	39	
支払手形・買掛金	3,092	3,132	40	仕入割引 689、仕入増加 629
短期借入金	1,770	1,770	0	
固定負債合計	1,387	1,142	245	役員退職引当金 154、退職給付引当金 92
負債合計	7,059	6,775	284	
資本合計	13,042	13,023	19	
負債・資本合計	20,101	19,798	303	

注: 当社買掛金の一括支払信託受益権を自社買取



. 平成18年5月期通期見通し



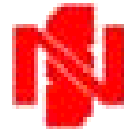
1. 概要

単位：百万円(百万円以下切捨て)、%、円

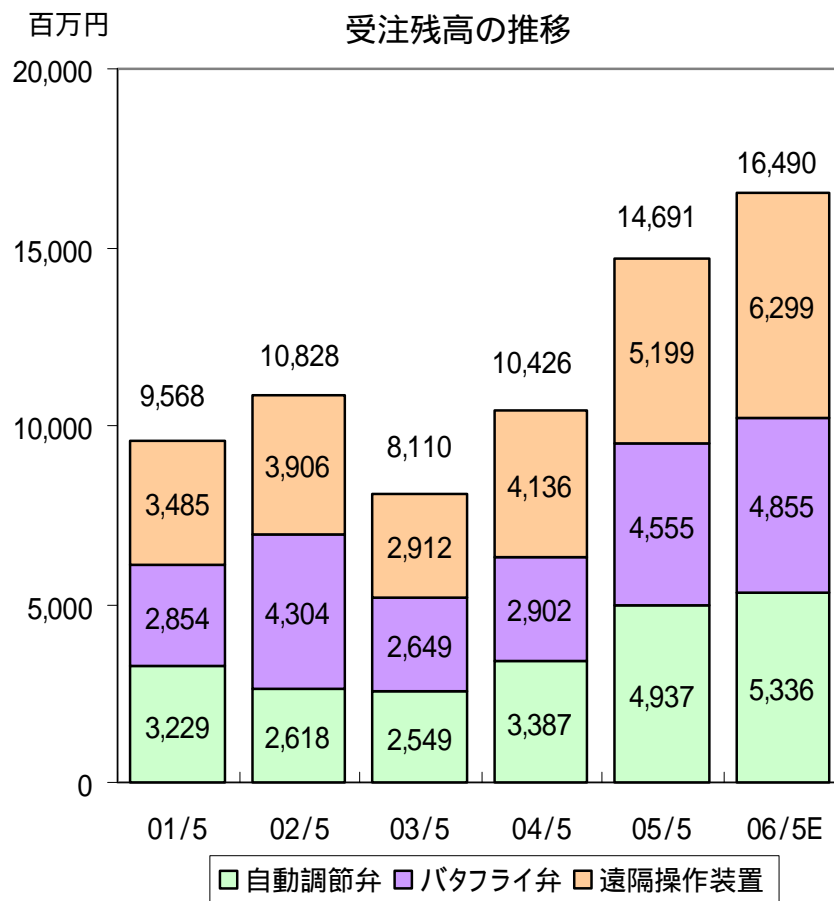
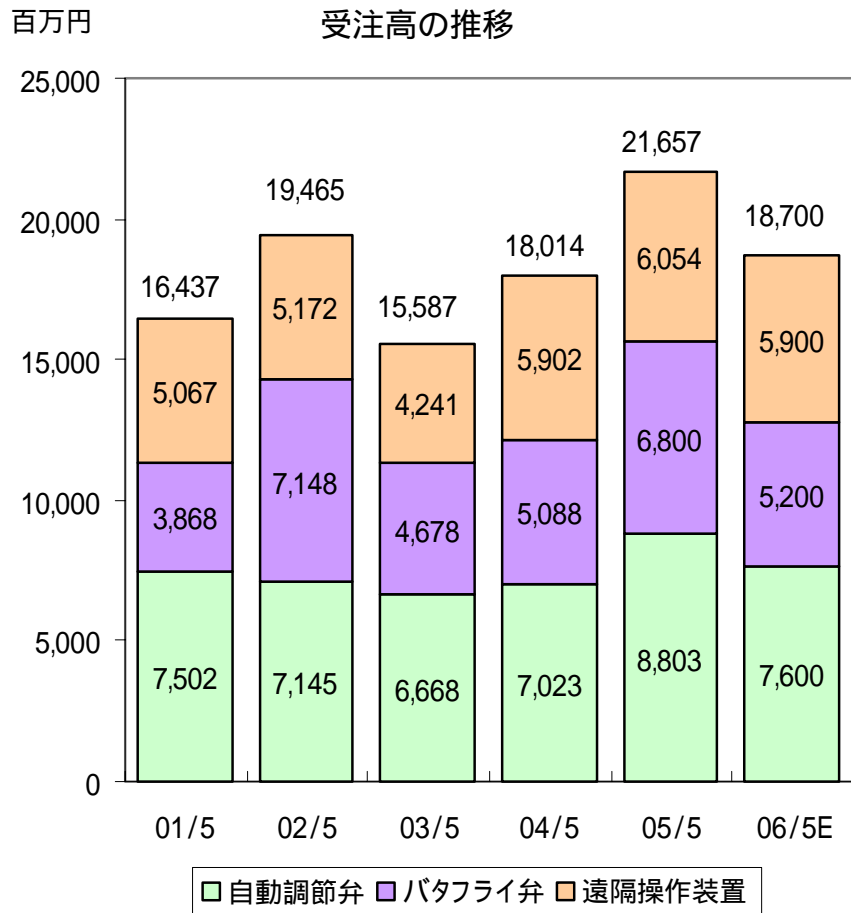
	05/5	06/5E	前年同期比		期初計画
			増減	伸率	
売上高	17,517	17,000	517	3.0	17,000
営業利益	1,658	1,500	158	24.7	1,500
経常利益	1,651	1,500	151	9.1	1,500
当期純利益	915	900	15	1.6	900
一株当り利益	25.8		46.8		46.8
一株当り配当金	25.0		25.0		12.5

期初計画は変更なし

上期の生産工程の乱れは下期以降正常化の見通し



2. 受注・受注残の見通し



好調な造船需要を背景に期初計画を上方修正



3. 損益計算書

期初計画は変更なし

単位:百万円、%

	05/5	構成比	06/5E	増減	伸率	構成比
売上高	17,517	100.0	17,000	517	3.0	100.0
売上原価	14,358	82.0	14,000	358	2.5	82.4
売上総利益	3,160	18.0	3,000	160	5.1	17.6
販売費・一般管理費	1,502	8.6	1,500	2	0.1	8.8
営業利益	1,658	9.5	1,500	158	9.5	8.8
営業外損益	7	0.0	0	-	-	0.0
経常利益	1,651	9.4	1,500	151	9.2	8.8
特別損益	80	0.5	0	80		0.0
税引前当期純利益	1,572	9.0	1,500	72	4.6	8.8
法人税等	656	3.7	600	56	8.5	3.5
当期純利益	915	5.2	900	15	1.6	5.3

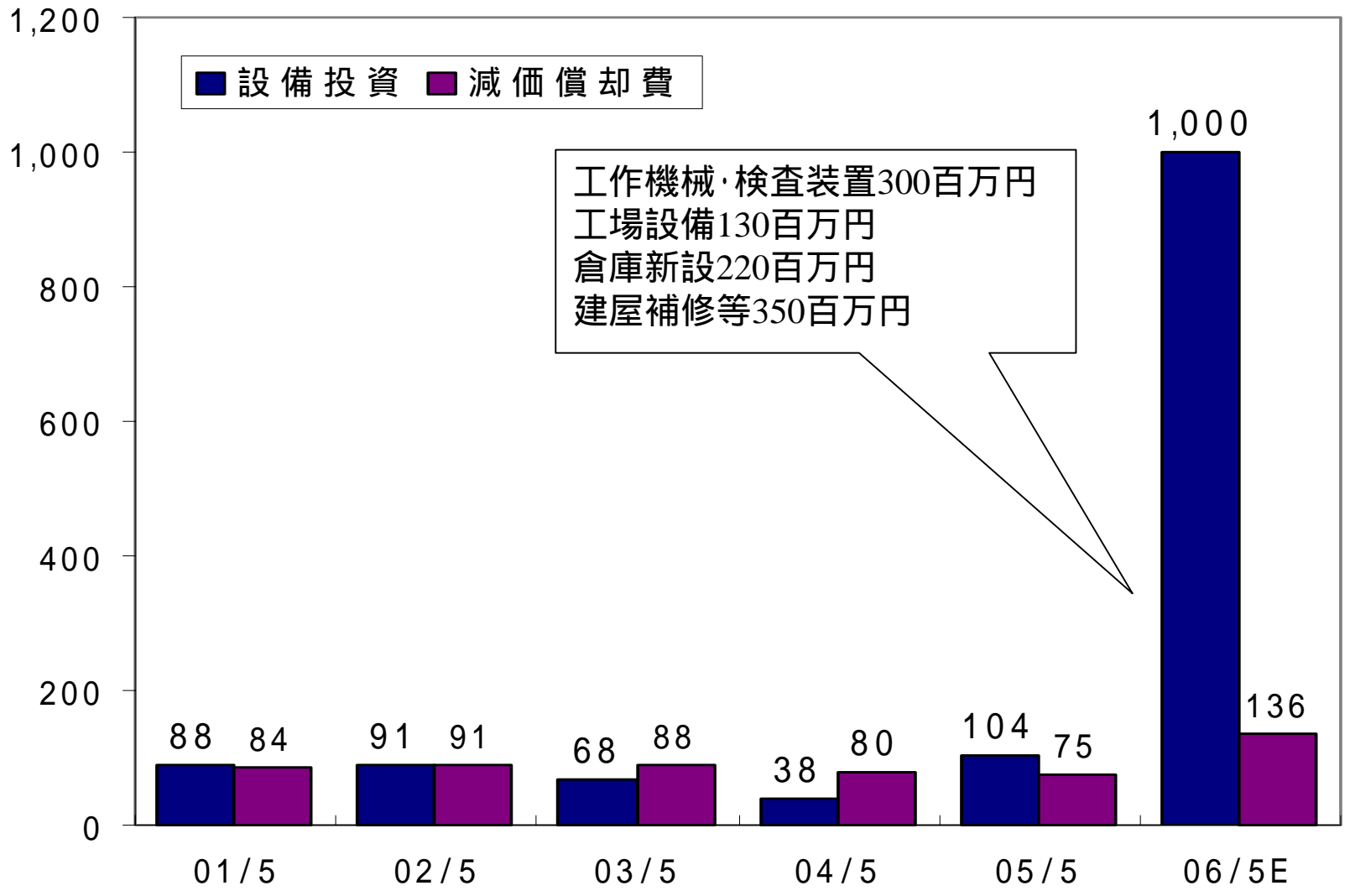
【部門別売上】

自動調節弁	7,253	41.4	7,200	53	0.7	42.4
バタフライ弁	5,149	29.4	4,900	249	4.8	28.8
遠隔操作装置	4,992	28.5	4,800	192	3.8	28.2
不動産賃貸収入	124	0.7	100	24	19.4	0.6



4. 設備投資と減価償却費の見通し

百万円





. 今後の展望



1. 今中間決算の振り返り

業績について

営業利益が計画未達となった要因は生産工程の一時的な乱れの影響

受注動向について

旺盛な造船需要を背景に高水準の受注を維持



2. 今後の取り組み

コアである船舶や発電業界において
取り扱い製品の裾野拡大を目指す

(1) 船舶用バルブ

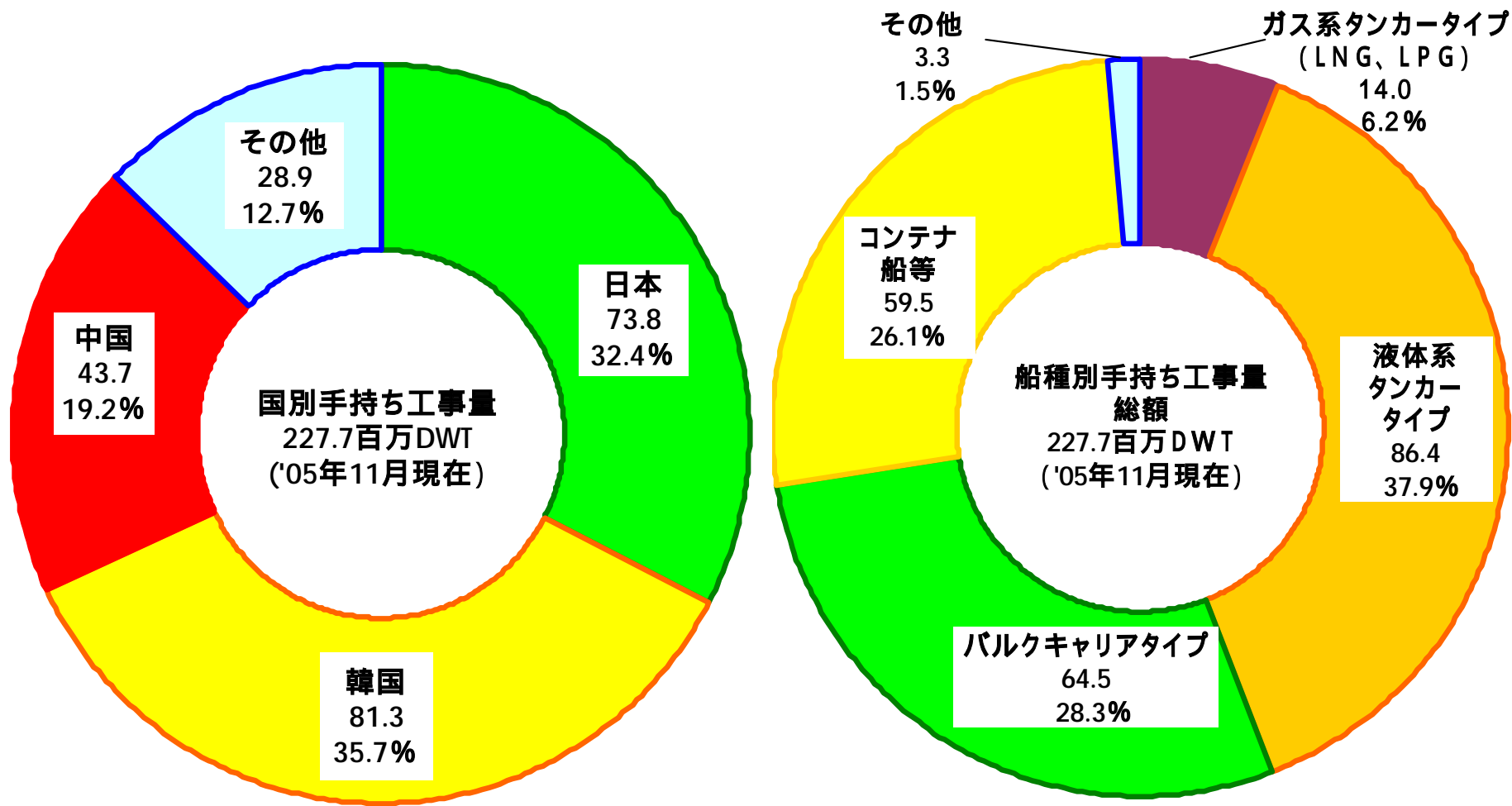
LNG船用バタフライ弁受注活動開始

(2) ガスタービン向けバルブ

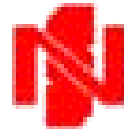
燃料制御弁高応答アクチュエーターの開発



3. 船舶用バルブ～国別・船種別手持工事量



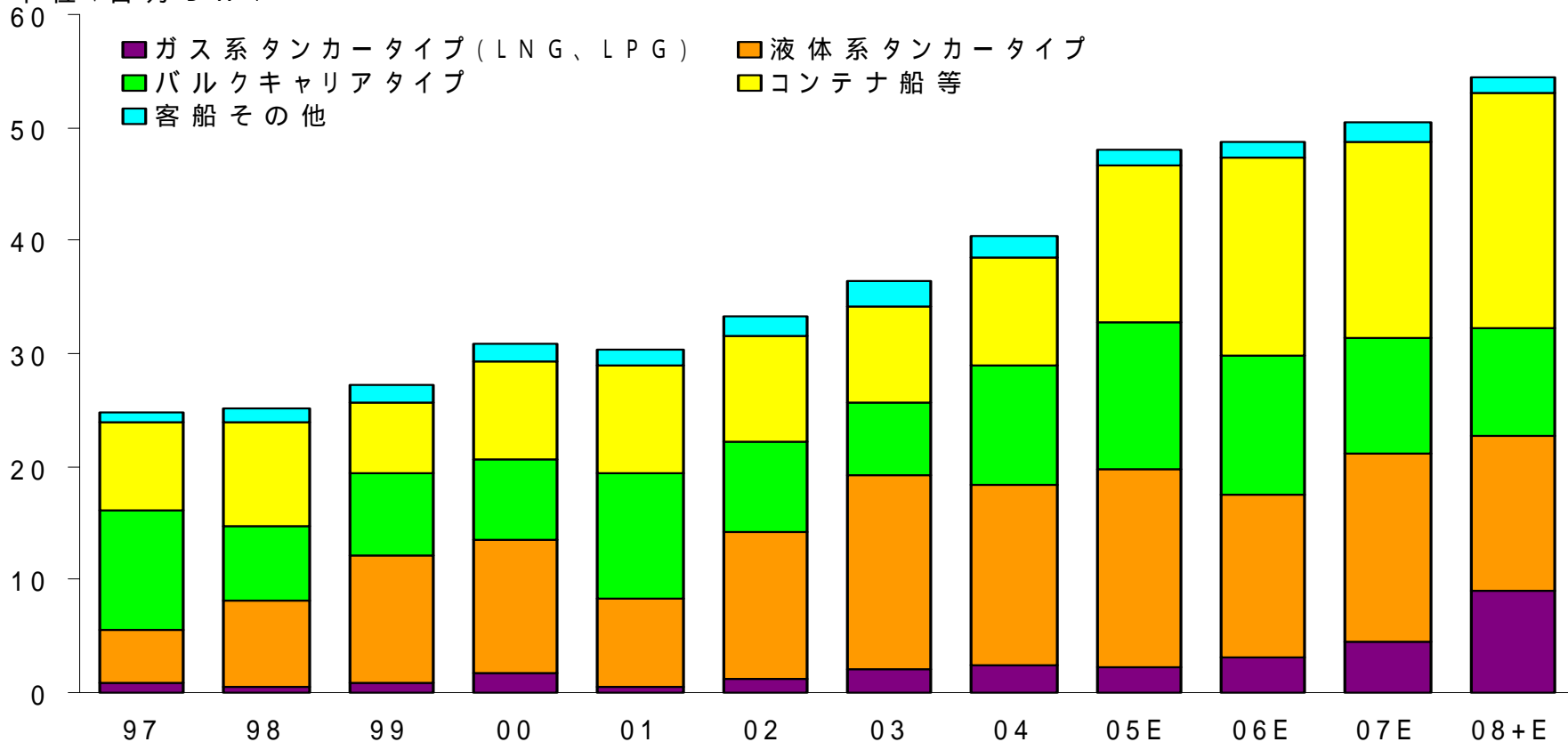
出所: CLARKSON RESEARCH SERVICES
World Shipyard Monitor



3. 船舶用バルブ～新造船建造量の見通し

新造船需要はLNG船・大型コンテナ船中心に
2009年～2010年まで堅調が見込まれる

単位：百万DWT



出所：CLARKSON RESEARCH SERVICES World Shipyard Monitor



3. 船舶用バルブ

競合と差別化

バラストライン(海水の積み下ろし)やカーゴライン(原油、LNG等の積み下ろし)は、バタフライ弁、弁駆動装置、弁遠隔操作装置、液面計などで構成されるが、それら全てをシステムとして一括供給できるのが当社の強みとなっている。

当社の国際競争力の要因比較

価格競争力	製造コスト	材料費		
		人件費		
	価格			
	支払い条件			
非価格競争力	技術力	設計		仕様変更にも柔軟に対応
		生産技術		
	品質	耐久性		実績による信頼
		性能		同上
	納期			同上
	品揃え			システム販売できる強み
アフターサービス	ネットワーク		全世界をカバー	
	部品供給		設計図の長期保存、財務の安定が長期安定供給の裏付け	



3. 船舶用バルブ

LNG用バタフライバルブでササクラと提携

経緯:

昨年8月、LNG船に搭載される超低温バタフライ弁の製造販売について株式会社ササクラと提携

背景

エネルギーのLNG化を背景としたLNG船需要の増加
LNGは超低温のため技術的に難しく、また従来は需要が少なかったこともあり、欧州メーカーの独占状態
品揃えに加えることにより、当社は全船種のカーゴラインに対してシステム販売が出来る体制となる

役割分担:

設計・開発 : ササクラ
製造 : 中・小口径は中北製作所、 大口径はササクラが分担
販売及びアフターサービス: 中北製作所

今後について:

高付加価値製品であり、LNG船1隻あたりの売上は約1億円強
今後需要が増加する分野でありシェア拡大に注力
4年後には年間10隻程度の売上げを見込む
将来需要が伸びて専用工場が必要となった場合、合弁会社の設立を検討



3.船舶用バルブ

SEA JAPANへの出展

2006年4月5日(水)～7日(金)

10:00～17:00

東京ビッグサイト(東京国際展示場)・東4ホール

(株)サクラとの業務提携により、弊社工場で製造され、製品ラインナップに新登場したLNG船用低温バタフライ弁(溶接、フランジ型)を初公開し、好評のCPU制御油圧弁リモコン装置に連動させデモンストレーション操作を実演。





4. ガスタービン用バルブ

**コンバインドサイクル発電プラント向けガスタービンの
需要は堅調**

需要堅調の背景

エネルギー問題

地球環境問題

工期面で有利

上記背景から建設プロジェクトが増加しており、
プラントメーカーも増産の動き



4 . ガスタービン用バルブ

中北製作所の取り組み

- 1 . 高効率高温化に伴う弁内部の耐摩耗性向上への取り組み
- 2 . 燃料制御弁高応答アクチュエーターの開発



5. 今後の課題～生産性の向上

設備更新

教育訓練：技能伝承

部品の標準化推進

情報の共有化：営業・設計・資材・工場

情報の早期入手による効率的生産計画の作成



6. まとめ

地球環境を考える中北

～時代のニーズに機敏に対応した開発～

クリーンエネルギー(LNG)化への対応

ガスタービン発電への対応

バラストライン用バタフライ弁の電動アクチュエータ化の推進

企業価値の向上に向けて「進取発展」